

岡地区の黒堀に囲まれた豪農屋敷群と信仰の道、そして「小僧道」を巡る

- ① 小僧道を巡りながら、パワースポットと札所へのお参りを気軽に体験し、この地区の精神文化に触る。
- ② 豪農屋敷群を囲む黒堀を巡りながら、昔日にタイムスリップ。

a. 旧柏倉九左衛門家住宅(国指定重要文化財)



- > 庭園の雪見灯籠は、維新の志士清河八郎が祀られている清川神社由来のもの、山形大学岩田教授は推察。(日展会友青木邦明氏の研究より)
- > 庭園の石段石、塀や建物の基礎石、水路に設えた石等、石材の種類が豊富。県の石「デイスイト凝灰岩」も見られる。



- ※三嶋神社(中山町指定文化財)**
元禄4年(1691年)建立。
柏倉家の現存する建造物で最も古い建物。
当家の鎮守社である。
祭神は大山祇神(オヤマノカミ)。「雨乞いの神」、「商売繁盛」を祀る。
(パワースポットの雰囲気)
登り口にある柏倉翁の石碑「粹香」も見事である。

※民話「柏倉九左衛門家の埋蔵金」

b. 旧柏倉惣右衛門家住宅(町指定文化財)



- > 享保9年(1724年)宗家4代からの分家。黒堀と石垣(切石亀甲積み等)が美しい。
- > 村山郡の地主全体で、ベスト30に入る規模であった。
- > 古着商いも行い。上方の古着問屋と地元の古着商人を媒介する卸商人として活躍した。

※小僧道

- ・ 南へは、惣右衛門家門前から、九左衛門家西側塀の小僧道へと続く。
- ・ 北へは、現在は農村公園になっている、影沼跡東側を経由して岡千手観音堂とつながる。



c. 岡千手観音堂(最上三十三観音十四番札所) ~ 小僧道を北に辿って、柏倉清右衛門家西側へ~

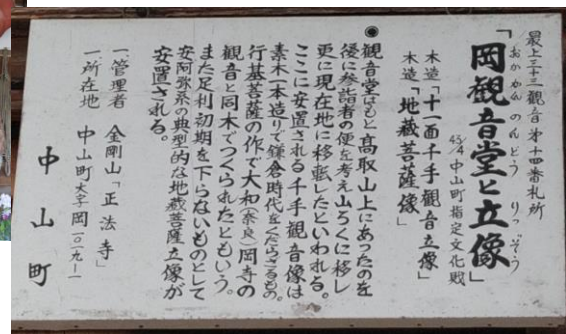


観音堂正面

鳥居をくぐると、仁王様が出迎えてくれる。



観音堂由緒



本殿(町指定文化財)



- > 「雨乞い観音」、「東向き観音」と呼ばれる。
- > 木造十一面千手観音菩薩立像(町指定文化財)は鎌倉時代の初頭の造立。木造地蔵菩薩立像は室町時代の造立。他に、正徳3年(1713年)奉納の絵馬「繫馬之図」等がある。



ブリキの標札は、珍しい



- > 境内には、「湯殿山供養」、「太神宮」、「地蔵」、「念仏供養」、「光明真言」等、神仏への多様な信仰碑や供養塔があり興味深い。鳥居あり、お堂あり、神仏習合の面影あり。
- > 川西三十三観音霊場の1番札所。川西とは、須川、最上川の西岸並びに流域の村々をいう。

- > 奥の「湯殿山」は、九郎兵衛家6代目書家の柏倉南邸の遺華。(柏倉南邸については、h. 柏倉九郎兵衛家の項を参照)

岡地区の黒塀に囲まれた豪農屋敷群と信仰の道、そして「小僧道」を辿る

※ 小僧道

観音堂から小僧道を北に辿って
 ↓
 柏倉清右衛門家へ
 ↓
 1724年宗家5代からの分家。
 (道の東側が清右衛門家)

➤ 道祖神

小僧道沿い、りんご畑(私有地)の中。柏倉清右衛門家の西北。

道祖神は村の入口等に祀られる。「境を守る神」「悪魔を追い払う神」とも。

この先に



「道祖神」



➤ ご満堂

岡山陰麓、「愛染明王」が祀られている。旧暦3月26日が祭日
 ※柴崎新左衛門家(章雄氏)の管理。

➤ 近世は水商売の女性が恋愛祈願の対象として信仰。他には染色業者が信仰の対象とした。お堂の中に「吊るし飾り」がある。



民話「ご満堂と道祖神」

d. 柏倉清右衛門家

- 宗家5代目からの分家。宝暦12年(1762年)創設。黒塀と石垣が美しい。
- 紅花商人として活躍した。

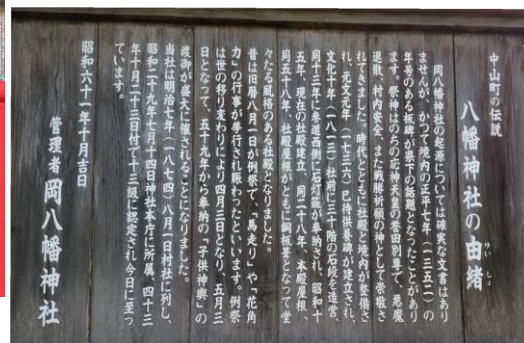
e. 八幡神社



八幡神社の起源は定かでは無いが、1352年(正平7年)の板碑が話題になったことがある。祭神はのちの応神天皇となる誉田別尊(ほんだわけのみこと)を祀る。悪霊退散、村内安全、戦勝祈願の神として崇敬されてきた。

古碑(正平七年)

民話「たすけを求めた石橋」の石塔婆



f. 柏倉喜作家

- 柏倉喜右衛門家2代目からの分家。黒塀が美しい。
- 喜作家4代は画家の柏倉雪章。雪章は日本画の大家川端玉章の門下生。始め小松雲涯に師事した。雪章は九左衛門家の仏蔵の欄間「日本三景」や板戸「金時絵の蓮」のデザインを手掛けたほか、主屋の障子の手掛け「切り絵」のデザインと製作をした。
- 今は、みんなの居場所 岡縁里(おかえり)として親しまれている。



g. 柏倉喜右衛門家

- 柏倉九郎兵衛家3代目からの分家



※ 柏倉九郎兵衛家、喜右衛門家の両家は、約100m四方の黒塀に囲まれている。九左衛門家、喜作家を含め、一体は黒塀を含む里山の美しい景観の佇まいである。岡地区の旧柏倉家一族を中心とする黒塀の延長は、実測によると約1Kmにもおよぶ。

h. 柏倉九郎兵衛家

- 寛文8年(1668年)初代九左衛門が隠居し改名、別家を創設。
- 九郎兵衛家は多くの分家を排出した。九郎兵衛家6代は書家の柏倉南邸。南邸は、江戸時代後期に村山地方随一の書家と評された。岡観音堂境内の石碑「湯殿山」は南邸の遺筆。



※ 柏倉九郎兵衛家、喜右衛門家の両家は、約100m四方の黒塀に囲まれている。九左衛門家、喜作家を含め、一体は黒塀を含む里山の美しい景観の佇まいである。岡地区の旧柏倉家一族を中心とする黒塀の延長は、実測によると約1Kmにもおよぶ。